

## 会議記録

会議件名	第5回大東大須賀区域認定こども園化推進委員会
日時	平成28年7月22日（金）10：00から11：50
場所	掛川市役所本庁 全員協議会室
出席者	推進委員会委員 20名（欠席なし） 事務局 10名

### 会議の概要

#### 1 開会

#### 2 あいさつ 山本委員長より

本日は第5回目の推進委員会となる。委員の皆さまから特に異論がなければ本日で終了となる。提言（案）は事前にご覧いただいていると思うが、お気づきの点があればご意見をいただきたいと思う。本日はよろしくお願ひします。

#### 浅井副市長より

今回5回目となります。市としても、市民、子ども達にとりましても大変重要な課題、なかなかできない仕事であります。その中で皆様の大変貴重なご意見をいただいております、心から感謝申し上げます。

前回から振り返ると、第4回時には認定こども園化の考え方、何故認定こども園なのか、何故民営化なのかという議論、整備場所の議論、提案書の素案についての議論をしていただきました。特に新しい出発をするに際して、民営化と同時に官民の連携について、行政の指導がどのように入るのかということも話題になりました。旧掛川市の8園化構想の後に市の教育委員会と法人が協定を結んで、年数回、指導主事が園を訪問して経営について議論をしながら、相乗効果によりいい連携ができています。掛川らしい質の高い教育・保育を作っていきたいと思っています。

かけがわ乳幼児教育未来学会という新しい取り組みも始まっています。

本日は第5回、大変お世話になります。たくさんのご議論をしていただき、私共もそれを得て次の施策を考えていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひします。

#### 3 報告事項

##### (1) 第4回推進委員会以降の進ちょく状況について

資料1について事務局より説明。

#### 質疑

委員 資料にある地区区長会長との意見交換会で、発足後の職員の交流研修を深めてもらいたいと発言した。例えば大須賀は2園になってしまい、大東は3園ですから、区域内だけで交流していると狭い。磨き合うには大東・大須賀合わせて5園になれば、深まることも考えられるし、更には掛川地区の幼保園とも交流し、高め合うことを進めていく必要があるという意見を出した。

事務局 5つの園ができて法人は別々になるが、法人が違っても更なる先生達の交流をする。とてもうれしい提案、記述を加える。

委員長 資料にある「大東大須賀区域認定こども園建園の精神検討プロジェクト会議」では、どのような議論がなされたか。

事務局 資料1-2をご覧いただきたい。これはたたき台、元になる資料で、これについて議論をしたところ、人事交流を広く積極的に行うべきだという意見や、遊びから全てが出發するので遊びを大事にして欲しいという意見、小学校との繋がりを大事にして欲しいという意見、地域の人々と一緒になって教育・保育をしているので、是非そのことも盛り込んで欲しいという意見、今まで小規模園だったのが大きくなることについて、小規模のいい所を伸ばし、大規模のいい所を伸ばす

という考え方を大事にして欲しいという意見、保育士の仕事は大変なので十分な研修ができるよう環境整備が課題、悩んでいる保護者の家庭との連携も重視すべき等、たくさんのご意見が出された。どのように盛り込んでいくか、これからの仕事となる。

委員 大東地区の意見交換会でのことを申し上げたい。皆さんが心配されていることは、地域の理解を得るための取組をもっとして欲しいということに尽きると思う。大東の場合、大坂・千浜については既存の幼・保と同じ場所が候補地となっているが、城東地区は3つの幼稚園と1つの保育園が1つになる。城東地区については場所の選定から気を遣って欲しいという意見が区長から出ている。学園化構想という大きな考え方の基に進めてもらいたい。この提言をされた後に具体的な話がでていくと思うが、基本的なことが決まり、市当局の方針が決まったならば、一刻でも早く城東地区については市民理解を得るための方策をして欲しい。そのような雰囲気が強かったように感じたので報告する。

委員 今話があったとおりが、区長もまだまだ幼保再編について理解していない。地元の住民はもっとわからないので、不安が強いと思う。情報はある程度決まったならばできるだけ早く出していただきたい。

事務局 先日の意見交換会では委員が言われたような意見は両地区から出されていた。今回は地区区長会長にお話をさせていただいたが、今後はできるだけ情報を提供し、反映できる意見は反映しながら最終的な市の計画を固めていきたいと思っている。今後、地区の区長や保護者等広い範囲の皆さまに情報提供し、意見を聞きながら進めていきたい。

委員 大須賀区域の意見が出た中で、横須賀幼稚園の所が津波の心配があるから高台の方へと、その候補地を早く決めていかないといけないが、横須賀高校の後ろが候補に出ているという状況をここでみなさんにお伝えしておく。

#### 4 協議事項

##### (1) 大東大須賀区域認定こども園化のあり方（提言）案について 事務局より説明。

##### 質疑

委員 10頁③、保育者への理解促進と配慮とあるが、先日の大須賀区域の意見交換会でも、公立幼稚園に勤務されている先生方の今後について、非常に難しい問題だという意見があった。難しいだけに丁寧な対応をする必要があると思うので、よろしくお願ひしたい。

委員 人口推計が4頁にあるが、最終的に提言書はこれと同じA B両方で出すのか、推計Bで出すのか教えて欲しい。

事務局 人口推計については、両論併記ということで同じ形で出したいと思っている。

委員 数字が大きく違うので、どうかと思うているが、推計BでいくならBだけでいいと思うが。

事務局 推計Bは掛川市総合計画の各種施策を実施し、人口減を抑えていく場合の数字。そのとおりにうまくいけばというものになる。目標はBに向かっていくのだが、何もしなければAになってしまうということを認識してもらう必要もあるので、両方をと考えている。

委員 ぱっと見て大きく違う。数字の裏に書かれているものは何となくわかるが、このように表で出されると、どちらの推計を元に考えを出しているのか混乱することもあるのではないかと思い質問した。

事務局 12頁の参考資料に推計人口の考え方を書いてあるので、簡略化した説明を4頁にも加える。

委員 2つ聞きたい。まず、これを提出する先は、これを読む対象の人というのはどこまでか。市長なのか、例えば一般市民も読むとするともう少し丁寧に解説を加えないとわからない部分があると思う。

もう1つは、認定こども園の財源に消費税が10%になった場合の増税分を充てるという話であるが、増税が見送られている。影響はないか。

事務局 提言書そのものは市長に対しての提言なので、ご指摘いただいた文言の修正を加えた上で、この形で提出したい。内容は一般市民にも知ってもらいたいものであるため、よりわかりやすい市民向けのリーフレットのようなものを別途作成したいと考えている。認定こども園については6頁の一番下に少し説明があるが、わかりやすいように説明を加える。財源について、消費税増税は見送られたが、国の方針は子育て支援に関するものについては最優先で財源確保に当たるとい

説明がされている。

委員長 今、具体的にご提案いただいた件については文言等練り直しをしたいと思うが、表現等の問題に関しては事務局と私共で遂行してお任せいただくということによろしいか。

(委員承認)

ありがとうございます。

本日は若干時間がある。これが最終回になると思うので感想等を一言ずつお願いしたい。

委員 改めて、将来を担う宝である子どもが、更に減少していくという数字が統計でしっかり出ていることにショックを感じている。その中で少ない子ども達が心身ともに充実したこども園生活を送られ、立派に成長していく土台を作っていかなければいけないという思いで5回出席させていただいた。

委員 本日で最終回ということであるが、今あったように、掛川市だけでなく日本全体が少子高齢化ということで子どもが減っていく。これは将来の日本経済を揺るがすような大きな事件になっていく。そういう中で掛川独自のこども園を作っていくわけであるが、特に幼児の教育は重要である。そういう教育を目指していただき、若いお母さんには2人、3人・・・と産んでいただきたいが、昨今はお金もかかる。そういうことが行政で応援できないと少子高齢化を回復させることは難しいと思っている。我々もそういう意味で一翼が担えるように、今後もがんばっていききたいと思う。

委員 保育士と幼稚園教諭の理解促進が一番の課題だと思う。保護者には幼保の溝がないような形で混合していきたいと思うが、そこが埋まらない限りはまだ解決にはならない部分がある。建設までには十分検討していきたい。

委員 おおぶち保育園は開設した当時から幼保に対応した園を作っていた。10年経過するので、やっと動き出すという感が強い。法人としては大きなことなので、色々勉強したり、身の引き締まる思いであるが、進めていきたいと思っている。提言については最初の委員会の中でスケジュールも検討の中に入っていたと思う。もう少し具体的な時期が出せれば、もっと良かったと思う。それから候補地についても絞り込みができて提言ができれば、もっと良かった。

委員 掛川市は平成27年度中に保育園2園作ると決めて、平成29年4月には2園開園する。1年半位で2園作ってしまうスピード感はある。大東大須賀区域の幼稚園保育園再編は、検討は長い間されてきたが、これまで具体的な動きはなかった。今回、5園化の結論が出たのならば、園の理念等を早く決め、早く整備をすべきである。運営上の課題は、運営しながら解決していくという部分も多い。掛川市がずっと前から生涯学習宣言し、教育に関しては日本一をめざすと市長は言っている。幼保園も全国に先駆けて作った、そういった流れがあるわけだから、それがここで後れを取ってはもったいない。冒頭、副市長からも話があったが、乳幼児教育未来学会を作り、これから乳幼児教育の質を上げていこうという動きがある。だから、早々に新しい園を作ってもらって、掛川市全部で教育の質を上げて欲しい。

委員 この提言で大変すっきりしてきたのではないと思う。特に思ったのは、検討結果の後の認定こども園の目指す姿がとても明確に示されていると思う。学校と園との繋がりは大変深いものがあり、ボランティアで支えてくれている方々も、学校や園との連携が大きいので、地域子ども達を地域全体で育成していくための拠点の役割という言葉は、地域総ぐるみでこれまで築き上げられてきている形を、形は大きくなっても続いていくということではないかと考えた。園の形が変わるのは、変動が大きいことであるが、今まであったいいものをできるだけ多く残していけることが願いであると考えた。

委員 単に保育園と幼稚園が一緒になるということだけでなく、地域の子育て拠点が今後、地域における重要な場所になるのではないかと考えた。それと共に小学校と乳幼児との関わりについて、今後どのようになっていくのかを考えていかなければいけないと感じた。

委員 昨日、おおぶち保育園の参観を見学し、それぞれの園が持っている良さや伝統が大規模園になっても生かされていくといいなど、改めて思った。それと共に未来の子ども達のために認定こども園だけでなく、地域や保幼小中とずっと続いていく中でどうあるべきかの視点を忘れないことが、とても重要だと改めて感じた。

委員 保育園は託児ではなく、養護と教育というねらいと目標に向かってやっている。保育園のいい所

を進めていきたいし、幼稚園のいい所、教育の質の高い所を一緒にしながら共に前に進んでいければいいと願っている。土方地区、中地区、佐東地区の民生委員の方々に来てもらい、保育の概要説明や園の見学をして最後は子ども達と一緒に給食を食べてもらうことを毎年1回実施している。先日来られた際に、今こんな状態で認定こども園の話が進んでいるという話をした。土地がないのが課題と言うと、「うちの土地を使えばいい」と大変協力的な意見を聞くことができ、安心した。

委員 保育現場は少子化、保育士不足で色々な課題が山積して厳しい時代になったが、提言書については理想高く掲げて、基礎固めがやっとできたという感じがしている。これからはやはり法人の熱い思いや現場を仕切る園長先生の熱い思いというものが、現場の士気を高めていくのだろうと思っている。是非、今までと変わらず子ども達のためにという部分を最優先に考えていただける施設になって欲しいという期待が大きい。どうしても大規模園化ということについての今までとの違いというのが出てくるとは思う。小回りが利かないということで、すこやかも何回も修正を加えて現在14年目に入るが、それは避けて通れないことだと思うが、現場がよくわかる先生達が最善と思うことを毎年工夫していくことで、園を築いていけるのだと思う。小学校については、今までの南部は隣接されていたので安心感があったが、これからは薄く広くというつきあいになっていく。年長担任の職員が幼小連絡会に参加し、色々な学校の様子が見れて非常に勉強になることだが、片や何度も足を運ぶ機会があるので、保育を抜けてとか勤務時間の中での工夫が大きい園では必要になってくる。色々と見えない部分があると思うが、北部でも法人ががんばってくれたり、すこやかも努力してここまで来れているので、がんばって欲しいと期待している。

委員 最初は何もわからずに参加していたが、会を重ねていくうちに少しずつ、色々見えてきたような気がする。今回で終わりということだが、整備場所や具体的な時期等はっきり決まっていな所があるので、検討状況のパンフレット等で積極的に保護者に情報提供してもらいたい。より良いこども園になることを願っている。

委員 この会に参加して、掛川らしい質の高い幼児教育を未来の子ども達のために掲げていることを文面で見せてもらうことで、保護者で園に通っているだけだとなかなか感じ取れない部分があった。こんなに子ども達のためを考えて練ってくれていたのはとても有り難い。認定こども園ということについても、園が大きくなることで不安な部分も多かった。小学生の子どもがいるが、地区の子が幼稚園と保育園が分かれてしまうと、小学校に入学した時に、同級生を知らなかったという現実がすごくあった。認定こども園になることで、たくさんの子ども達と関わることで地域の同年代の子ども達を知る機会にもなり、子ども達にはいい刺激になるのかなと思った。保育園に通っているのも、同世代の幼稚園の子どもと関わることで小学生への移行が、友達関係の面ではスムーズにいくのではないかと思う。一番下の子どもが多分認定こども園でお世話になると思う。どういうふうに立ち上がって子ども達に返ってくるかというのが、とても楽しみでもあり、また、この提言で話してきたことが子ども達に返ることでより良い成長になるのではないかと期待ができる会だったので、有り難いと思った。自分は少し、幼稚園教育に携わっていたことがあり、これだけは先生達のためだと思うことがある。財政面とか厳しい部分があるとは思いますが、質の高い幼児教育を目指していくためには、ある程度の人材、女性中心の社会で子育てや家庭を守らなければいけないという部分がある中で先生達は一生懸命やってくれている。育休で職員が足りなくなったりして準備が大変だというのは、自分が働いていた時から問題になっている。男性がだけだと多分、仕事を中心になってやっていけて、質も高まっていくが、女性は自分の子どもを差し置いてでも、携わった子ども達のために一生懸命いくが、やっぱり難しい面があり、そういった配慮や、嘱託職員だと更新更新で積み上げてきたものが切れてしまう部分があり、そこも考慮して欲しい。職員が高めてきたものがもっと高まったり、そこが子ども達に返ったりと繋がりやすいのかと思う。

委員 このような会に参加できていい経験になった。これから認定こども園化に向けて、今の幼稚園、保育園のいい所を併せ持った園ができれば、保護者も安心できる園になると思う。

委員 横須賀幼稚園では、何年も前から移転をと言う希望が出ている。移転の話が具体的に見えてきたので、多分保護者達は安心すると思う。

委員 千浜は人数もとても少なく、のんびりした地域。正直、保護者の心配は千浜幼稚園と千浜保育園がいつまで存続されるのか。いつ大坂と一緒になるんだろうという所だった。千浜だけでこども園を作ってもらえることは、千浜の人にとって安心できることだと思う。最初はこども園がどの

ようなものなのか全く白紙の状態に参加し、色々な方の意見や資料を見ていく中で、不安だった部分が少し期待に変わってきている。小さな子どものお母さん達がこども園に期待できるような状況になっているように思う。今、核家族が増えている中で先生達が、保護者の中でも大きな存在になってきていると思う。先日、子どもの友達の祖母と話をしていた時、他の子どもがぐずっているのを見たときに、「仕方ないよ、この前までおむつしてたんだから」と言われたのを聞いて、確かにそうだなと思った。そういった気持ちのベクトルを変えてくれるような小さなアドバイスを家族以外に求めなくてはいけない状況で、それが園の先生になるのではないかなと思う。先生達が気持ちよく、長く続けてもらえるような環境を作ってもらえたら有り難いと思う。

委員 大東大須賀区域の乳幼児教育の発展に参加できてうれしく思う。この資料を見た保護者の何人かから聞かれたことがある。まずは、本当にこども園ができるのか。これは本当のことなのかということから始まり、場所、いつできるのか、体操服や制服はどうなるのか、保育料はどうなるのかということが多かった。子ども達はきっとすぐ慣れると思うが、保護者は戸惑ったり、なかなか受け入れられなかったりすることがあると思う。そういった所も配慮してもらいたいと思う。更に安心して子育てしやすい街になることを願っている。

委員 この委員会に入る前までは幼保園と認定こども園との違いが全然わからなかった。おかげでインターネットで幼稚園、保育園、認定こども園の指導要領を読んだりして、理解が進んだと思うが、まだまだわからない部分がある。時代の要請の中で、このような方向に進んでいくのは仕方ないことかと思っている。こうして色々な文章が出来上がってきて、整備されてきて、大分充実してきたと思うが、こういうものを見る度に思うのは、掛川らしさとか、具体的には何を指しているのかということ。生涯学習を重視しているとか、そういう中に掛川らしさとかというものがあるのかなと思う。具体的に文章化してわかりやすくしてもらえると、更がいい。

また、民営化するにあたって、施設整備には市も財源的な協力を是非してほしい。先日、おおぶち保育園の参観をした。周辺の施設と比べても格段にいいと思う。行き届いた施設の中だと子ども達も先生達も意欲的になるように思った。これから作る施設はもっといい施設を作って欲しい。おおぶち保育園は横須賀幼稚園よりも海岸に近く、津波の心配があるが実際には被害の想定にはなっていない。津波避難タワーを是非公設で作る必要があるのではないかなと思う。子どもに投資していくことは大事なことである。

委員 子どもは地域の宝ということで文書に書いてあるが、いつまで経っても子どもは地域の宝であり、市の宝でもあると思う。そういう面で、子どもを中心に活動しやすい、子どもを想ったの施設を作って欲しい。まちづくり協議会では、この地域に生まれて良かった、これからも住んで良かったというまちづくりを始めたところ。認定こども園も地区を上げて協力していきたいと思っている。みんなが良かったと思える施設にしていって欲しい。

委員 市民が認定こども園を理解していくには、基礎的な説明がもう少しあってもいいと感じた。早く作って、というのは確かにそう思う。色々考えていても悩み事は尽きないが、進めてしまえば各園が話し合っ解決していき、そこで特色が出てくるので、掛川らしさというものも出てくると思う。作る所まではきっちりいかなければいけないが、後は保育の先生にお任せして、保育・教育の現場の創意工夫を期待してもいいのではないかなと思う。

委員長 委員の皆さまから思いを一言ずつお話していただいた。新しい時代の新しい形になるので、皆さんから出して頂いたご意見を元に、そして本日説明していただいた、あり方についての提言、大変うまくまとまったかと思う。

皆さまの意見を聞きながら考えていたのだが、冒頭、副市長から説明していただいた乳幼児教育未来学会の趣意書の2枚目、(2)掛川市の最初の幼稚園は・・・という記述がある。一番最初にできた幼稚園が、東京女子師範の附属幼稚園だろうと、これが明治9年。14年後にこの地域でこういうものができたというのは、すごいことだと思う。その前に、江戸時代の末期の識字率は80%程度あったと言われている。これは庶民の寺子屋での手習い、字の読み書き、そろばん、この辺りが日本の根幹だったろうと思う。当時、武士は100%の識字率だった。そのように考えていくと、本当に大きく変化した幕末から明治に掛けての革命だ。しかし、西欧の列強が虎視眈々と狙っていたにも関わらず、日本が植民地化されなかった最大の理由は、教育だったのだろうと思う。日本の教育が高かった根幹が、乳幼児教育だろうと思う。118年の歴史を踏まえた上で、新しい掛川としてどういうものを作っていくか、教育の文化ではないかなと思う。こういうベースになるものを大事にしなが、しかし世の中は動いているので、新しい形を模索していく、この辺りが大

事になってくると思うので、私の締め言葉とさせていただきます。

長期間にわたり、色々のご発言、ご提言をいただいたことに感謝申し上げて、この推進委員会は本日をもって終了とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局 提言については、いくつか修正についてのご意見をいただいたので、本日は大枠で提言案について承認していただいたということで、細部の修正については、事務局と委員長とで修正を行い、委員長の承認を取って完成させていく。完成後は各委員の皆さまへ送付させていただきます。

#### 5 その他連絡事項 事務局より

本日が最終となる。提言については、完成後に市長へ直接提出する機会を設けたいと考えている。委員の皆さままでご都合のつく方はご出席いただきたい。8月5日（金）午後2時から、30分程度、市長応接室で予定。出席していただける委員は、この会終了後に事務局までご連絡いただきたい。最後に浅井副市長よりお礼のあいさつを申し上げる。

#### 浅井副市長より

たくさん審議会、検討委員会等あるが、本日のように感動のある委員会の終わりというのは、今までなかったと思う。皆さま1人1人の言葉から、学ぶことも多かったと感じた。それぞれが人への思い、子どもを大事にするということを今回はやっているのだが、建物だけでなく人も大事にしている皆さまの思いが伝わってきた。本当にありがとうございました。

先程、委員長からもあったが、この掛川は誇り高き土地である。掛川幼稚園の118年の歴史もあるが、江戸時代には藩校というものがあつた。こういう所に学校の歴史があり、掛川幼稚園の最初の保母は初代の静岡県知事の娘さんだと書物に書いてある。その後の色々な学校、小笠地域にあつた〇〇館、〇〇学校は静岡県内では小笠郡が一番だということが最近、資料でわかつた。先人達の素晴らしい歴史がある。私達はその歴史と絆をしっかり引き継いで、次の代の子供達に素晴らしい未来ができるというふうに、強く決意を持って取り組んで参りたいと思っている。

少しうれしいことを言うと、人口減少が叫ばれているが、この掛川市は3月～4月に掛けて133人増えた。4月～5月に45人、5月～6月に81人、連続して増えた。住みよさランキングというものが発表され、全国の都市の中で掛川市は、静岡県下では第3位。うれしいことだ。掛川らしさを追求する、保幼小中の学園化構想のボランティアの数も平成27年度の1年間の延べ人数は10万人となった。これが掛川らしさそのものだというふうに思っている。市民総ぐるみの保育・教育にきつとなるに違いないと思っている。

これから実施の計画を建てていく。スケジュール、場所ということになる。大変な難業である。しかし、本日皆さまからいただいた言葉を胸に、1日も早く、2年後は明治維新150年という年になる。その頃には認定こども園第1号の整備が進んでいるといいと思う。

本当に長い間、度々おいでいただきご議論いただき、心から感謝申し上げます。どうぞこれからもお口添えいただきたいと思う。ありがとうございました。

#### 6 閉会